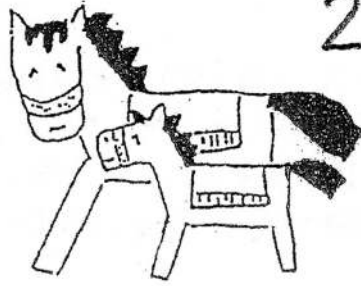


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
みせらす待ちまじ
ホウリ・ホウクリと。



20年 10月 NO.167

〒 760-0044

香川県高松市御坊町2-2

高松保育園内 地域子育て支援センター

TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857

<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

(厚生労働省・高松市委託事業)

～どなたでも～ 10月のプログラム～お気軽にどうぞ～

10月 4日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って みんなとあそびましょう。
10月 4日	土	木工教室 14:00～16:00	工具も材料もありますので どなたでもおいで下さい。
10月 12日	日	創立62周年記念運動会 9:00～13:00	運動会に親子で参加しませんか? 築地小学校にて。
10月 18日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方もどうぞ。
10月 18日	土	公開講座 14:00～16:00	「メタボ対策として食生活を見直す」 をテーマに栄養士の楽しい講座です。
10月 23日	木	香川みずゞさんの会 14:00～16:00	わらべ唄や手あそびのあと、 ビデオやテープを視聴します。
10月 25日	土	リフレッシュ講座 14:00～15:30	簡単なエアロビクスで体を 動かしてみましょう。(託児予約要)
10月 29日	水	健康・育児相談 10:30～11:30	小児科園医師にゆっくり 相談できます。

園庭開放 (14:00～15:00)

10月 14日 (月) 「わはは」より参加

出前保育 (11:00～12:00)

10月 21日 (火) 子育て“ほっと”ステーション
もこもこ (上之町 TEL:868-2251)

育児相談 (月～土) 9:00～18:00

しつけや子育てについての悩み、
保育園生活、入園・見学について
の相談もどうぞ。

稲^{はたけ}島のお花は刈られたか、
さびしい、さびしい、この町よ、
家と、ほこりと、空ばかり。

水色お空をなきながら、
千羽がらすもかえるころ。

黒海田
牛の舎
ひ夕に
いやい
いてけ、
か遠いま
えるくご
るこみて、
ろ。

涼しい夕風ふいて来た。

はつ秋

金子みずゞ童謡全集より



「こころを育む総合フォーラム」について～そのⅡ～

「こころを育む総合フォーラム」が20年8月19日(火)、「見つめようあなたの家庭・豊かなこころを育む場ですか？」をテーマに開催されました。フォーラム設立16人のメンバーの中から山折哲雄さん(宗教家)や、遠山敦子さん(元文部科学大臣)が参加され地元の植田昌史さん(虹の部屋室長)、小柳晴生さん(放送大学客員教授)の講演やパネルディスカッションがありました。

その中から小柳晴生さんの提言をご紹介します。

○大人と子どもの生きる速さのギャップ

今、大人と子どもの間で一番大きな問題は生きる速さのギャップと考えている。戦後60年の間に変わったのは、大人の生きる速さである。大量に物を生産し、生産された膨大な物や情報を消費するために、私たちは生きる速度を速め、密度を濃くすることで対処した。その結果、今では私たちは時速60キロかそれ以上の速さで生きるようになったと言えるのではないだろうか。

ところが子ども、ことに乳幼児は時速4キロの世界でしか育たない。昔は大人も子どもも同じ4キロの世界の住人だったのだが、大人と子どもとの生きる速さのギャップが広がり、別の世界の住人になりつつあるのである。

このため、親子が身体は一緒にいても、大人と子どもの間で情緒的な交流が妨げられるようになってきている。子どもが泣くと、親は「心のギア」を何十段も変えて子どもをあやさなければいけない。それが終わったら、また、現代社会の適応するために時速60キロの世界に戻らなければいけないのである。今、子育ては、親にとって心の負担のとても大きい営みになったのである。

親子が違う世界に住んでいると、子どもが求めた時にすぐに応えることはできない。どうしてもタイムラグが生じてしまう。具体的には、車を運転しているときに、携帯でメールを打っているとき、テレビを見ているとき、子どもの声が聞こえても対応が遅れてしまうのである。

また、子どもが発信する時速4キロの周波数を、60キロの世界で生きる大人が受信できないという事態も起きているのではないだろうか。こうして、親子が身体的には一緒にいても子どもの心が置き去りになるという事態が生じている。

さらに悪いことには、心寂しい思いをしている子どもを狙う「人さらい」が現われた。しかも、家の中にいるのである。テレビやDVDである。この「人さらい」は、50年間にカラー化、大型化と日々パワーアップしている。

こうして毎日多くの子どもが機械にさらわれるようになったのである。私はこれがADHDなどの発達障害が増加している原因と考えている。これは人類が始

めてであう問題であり、育児や教育上未曾有の困難なのである。

この問題を解決するには大人が生き方を遅くするしかないのだが、現実には、もっと速く走ることを求められている。速く走るためには子どもは足手まといの存在になってしまうのである。

さらに困ったことは、時速 60 キロで生きる大人は、子どもと過ごすゆったりとした時間の流れに意味を見出しにくくなっていることである。意味が感じられなければ、子どもと過ごす時間はイライラ苦しいだけのものになる。

私たちが足を踏み入れた豊かな世界は、実は子どもが育たない世界だったのである。そして、大人もまた、速く走ることに疲れ始めている。ここ 10 年の 3 万人を超える自殺や、心のくたびれである「抑うつ」の増加の原因と考えている。

速く生きるために無理を強いたのは、自分や子どもに対してばかりではない。大量の資源を消費し、大量の廃棄物を生み出してきたのだが、それも限界に近づきつつある。私たちは、今、ゆっくり生きることができるといふ歴史上初めての課題に直面しているのである。

人類の歴史は、常により速く生きる歴史であった。子どもが育つために、大人が生き延びるために、人類が生き残るために、生きる速さを緩める知恵を結集する時代だと考えている。



○豊かさを生きる力とは

豊かさは生きるのが楽と思われがちだが、物と情報が濁流のように渦巻き、膨大な選択肢を前に絶えざる選択と判断が求められる心の負担が大きい過酷な世界である。この世界をおぼれずに生きるのは、「自分の内なる声」が聞こえなければ、容易に立ちすくんでしまう。

たくさんの選択肢の中で、かろうじてナビゲーターの働きをするのが内なる声、感性だからである。内なる声が聞こえるためには、質のいい「自分と付きあう時間」が必要である。

しかし、いまの子どもは大人の都合で組み立てられた世界を忙しく生きている。「子どもが子どもでいられる時間、自分でいられるゆっくりした空間」こそがもっとも必要とされている。

私たちが新たに足を踏み入れた豊かな世界、大人も子どももどう生きてゆくか途惑っている。現代社会は、欲望を否がおうにも煽りたてられる「誘惑の地雷原」のようなものである。「どう生きるか」という自分の哲学がなければ、物と情報の濁流に容易に押し流されてしまう。

子どもは「どう生きるか」という問いに真剣に付き合ってくれる大人を求めている。しかし、大人はさかしまに説教したり、子どものためと称して「転ばぬ先の杖」をどっさり持たせたりする。

子どもはその重さゆえにへたり込んでしまうのである。しかも、その杖はこれまでの欠乏の時代を生きるには役に立ったかもしれないが、これから子どもが生きていく豊かな世界には役に立たない代物だったりする。

豊かさを生きるには、感性と哲学に加えて、莫大なエネルギーを必要とする。これを支えるのが心の栄養である。栄養の一つが「よくやっている」というねぎらいである。ところが今の子どもたちはねぎらいどころか、土砂降りのような批判にさらされている。「夢を持たなくなった」「善悪がしつけられていない」「学力が低下している」などである。

子どもの感性と哲学をはぐくみ、心の栄養を補給するためには、まず大人が子どもに敬意を持って関わり、子どもの声に誠実に耳を傾け、正確に聴くことである。大人が丁寧に関わってくれることが、自分への信頼、存在の自信を培うことに繋がるのである。

子どもは、「落ち着いた静かな大人」を求めている。心は、子どもの表現を正確に汲み取ることで育ってゆくと考えている。すでに、教育は過剰なほどになっている。そこへ大人がもっと育てようと、食べ物を食べさせようとしても、胸焼けと肥満を起こすだけである。



〇おわりに ～大人の生き方が問われている～

「落ち着いた静かな大人」といっても、大人は忙しい生活を維持するのが精一杯であり、疲れて余裕がなくなっている。ゆっくり子どもの声に耳を傾げるためには、大人自身がゆっくり生きていなければできないのである。

また、大人自身が、初めて出会う豊かさに、どう生きたらいいか迷っている。子どもの心が育つために必須の「質のいい自分と付きあう時間」や「どう生きるかを真剣に一緒に考えてくれる人」、「ねぎらいや正確に話を聴いてくれること」は、大人にこそ必要なものかもしれない。

それにしても、私たちが求めていたのは、こんなけたたましい喧騒に満ちたあわただしい世界だったのだろうか。大人がゆっくり生きるようになることで、私たちが心の深いところで願っている穏やかで心静かな暮らしに一步近づけるのかもしれない。ゆっくり生きるための知恵を一緒に考えたい。

「心を育む総合フォーラム」四国大会資料より

